

開星中学校・高等学校 保護者の会 教育後援会会報

天
籟

—第35号—



天



籟



一期一会

教育後援会 会長 安達 亨



日頃より、教育後援会の活動にご理解、ご協力いただき有難うございます。心から御礼申し上げます。

昨年は、元旦に能登半島地震が発生しました。あれから1年が経過しましたが、震災からの復旧が進まない中、9月に豪雨が追い打ちをかけ、まだまだ被災地の状況はなお深刻です。被災地の一日でも早い復興と穏やかな日常が戻ることを強く願つております。

また、開星中学・高等学校の関係者の皆様にとつて、今年1年がより充実した年になりますようにお祈り申し上げます。

さて、テーマに【一期一会】と書きましたが、この言葉は私の『座右の銘』でもあります。大好きな言葉です。「一期」とは一生、「一期」とは一度の出会いのことです。もう少し細み碎いて考えてみると、何度も会う機会がある人に対しても、常に「これが最後かも知れない」と考え、その人をして一瞬を大切にすべきという教えです。

人生が好転していく人はよく、「あの

時、あの人には、あの機会に巡り合えたから今の自分がある」ということを口にされます。これから自分の運命をいい方向に変えていくのは、自分次第であることは言うまでもありません。そのうえで、一人ひとりの出会いを大事にしていくことが、巡り巡つて自分の未来を良い方向へ導いてくれるのではないか。

私たちは、当たり前の日常に慣れすぎると、自分のまわりで温かく見守つてくれたり、サポートしてくれたりする人への感謝の気持ちが希薄になりがちです。まずは、日々、身近にあるものに対して、当たり前にあるのではなく『有難い』と思える心、それこそが大切です。これから長い人生の中で、【一期一会】という言葉の持つ意味を深く知つていると、得することがいっぱいあります。ぜひ、この言葉を思い出しそれぞれの道で明るく豊かな人生を切り拓いていくください。

最後になりますが、皆様のご健勝・今後益々のご活躍を心より祈念しております。

天



籟

笑顔を絶やさず中今を生きる

保護者の会 会長 仙田 朋之

今、私たちが生きているまさにこの瞬間が「中今」です。過去・現在・未来と時代の流れがあつて、祖先から引き継いできた大切な命の繋がりを考えながら、その命は決して自分一人の命ではなく、自分一人で生きているものではないという考え方です。

「中今を生きる」とは、「感謝の気持ちを大切に一生懸命生きる」事だと私は考えています。

昨今、自分の欲求を満たす為だけに他人の命を奪つたり、若者が挑戦する事に「お前には無理」と理由もなく馬鹿にしたり、邪魔をしてくる大人がいます。なかには、誹謗中傷までしてくる人もいます。この世の中、目に見えない「いじめ」が存在しています。

では、どうすれば自身の身を守り、楽しく生活ができるのか。私は、二つの事を大切にしています。

一つ目は「自分自身が笑顔を絶やさず、

いつも笑っている仲間を探す」事です。笑顔は連鎖して明日への活力をみなぎらせます。

もう一つは、感謝を忘れず「中今を生きる」です。今この瞬間を感謝できる人に悪い人はいません。

いつも笑顔を絶やさず、感謝を忘れない人になつて下さい。そして、日々を一生懸命生きて下さい。私も皆様に負けないよう一生懸命生き抜きます。

この度は、御卒業誠におめでとうございます。

天



籠

感謝

保護者の会 幹事 生和 しおり



小学2年生の時に地元のスポーツ少年団に入団し、野球を始めた息子は父の勧めもあり、中学校では硬式で野球を続けたいと考えています。

小学6年生の秋に、どこのクラブチームに入らか悩んでいた息子が『体験会に行くのではなく、試合を見に行きたい』と言うので大会日程を調べて試合を見に行くことにしました。試合を見た帰り、開星中学ボーイズの試合の雰囲気には魅力を感じた息子は体験会への参加を希望しました。体験会に行き、ますます開星中学ボーイズで野球をやりたいという思いは強くなつていった様に思えましたが、地元の友達と離れ、開星中学へ進学をすることは容易な決断ではなかった様です。

しかし、大好きな野球を硬式で部活動として毎日できるのは開星中学でしかできない事。その強い思いを胸に開星中学への進学を決めました。

不安を抱えながらの入学でしたが、野球部の仲間との出会い、他の部活動でも夢を持つて頑張っている友達や先輩達との出会いがこれから始まる開星中学での期待へと変わつていったようです。

中でも野球への熱い思いを持った仲間と過ごす時間は息子にとって、とても良い刺激となり、帰宅してからの自主練習に励む姿には意欲を感じ、心身ともに成長していく姿を大変嬉しく思っています。

今春、中学硬式野球部は春季全国大会への出場が決まっています。幾度とないピンチを乗り越え、みんなで繋いで掴んだ全国への切符。どんな場面でも諦めない選手達の姿に感動と勇気をもらいました。

そんな仲間と一緒に野球ができる息子を見ていると開星中学に進学して本当に良かったと心から思っています。また、指導者の先生方には、大きな怪我もなく楽しく野球を続けられている事にとても感謝しております。

息子の将来の夢は、プロ野球選手になる事だそうです。大きい夢の様にも思えますが、その夢を叶えるために今できる事に全力を注ぎ書き進んでほしいと思っています。



未来のために今できること

保護者の会 幹事 須山 友理



息子が本校に入学してから4年が経とうとしています。16歳になり、成人まであと2年です。私は、この話をいただき何を書こうか考えていたとき、息子の小学校の卒業アルバムを見つけました。卒業文集では「未来のために今できること」というタイトルで文章を書いていました。内容は、お母さんに言われる前にどうしたら行動できるのだろうか、実際してみるとお互いに良い方向に向いていけるという話でした。

現在、息子は野球部に所属しています。野球部は甲子園に行くという目的をもち、自分のため、チームのために頑張っています。その一環として、去年から朝早く登校し、学園坂の掃除をしています。一見、部活とは関係ないと思われるかもしれません

が、掃除をすることで野球部を応援してもらいたいという目的で始まったようです。はじめは、やらされているという気持ちの子もいたかもしれません。目的（甲子園）のために、今できることを継続することは大変です。けれど、継続していくことで、

それが日常となり、自分たちが掃除をすることで、誰かが気持ちよく朝を迎えるられるかもしれません。そういうふた行いが普段の生活に結びつき、野球のプレーに繋がり、勝利への方程式になるのかもしれません。野球だけではなく、それが社会にでるための人間形成にも繋がると思います。

息子にとってそれが「未来のために今でいること」だと感じました。これからも、将来に向けてなりたい自分を想像し、それに向かって先生方、友達の力を借りながら、一步ずつ大人になる姿を親として見守っていきたいと思います。



天



籠

破片探し

保護者の会 幹事 野津 佳世



「夢の破片を這いつくばつても拾い集めて輝かせてみせる」

これは、昨年10月10日、創立100周年記念式典で、卒業生の小川たけるさんが演奏された曲の歌詞の一部で、私は深い感銘を受け、「夢というもの」について深く考えさせられた。確かに一つの夢を実現するためには、パズルのように様々な要素（破片）を組み合わせていくものであり、自らが「這いつくばつて拾い集めるもの」で、どこからやつてくるものでもなければ、上から降つてくるものでもない。

私の娘は、新体操部に所属している。まさに今、大きな夢に向かって、夢の破片を、這いつくばつて拾い集めようとしている。しかし、どう必死に這いつくばつても、見つからない破片があるようだ。先生からの助言をいただきながら、がむしゃらに破片探しをするのではなく、「考えて動くこと」に方向転換したり、勝つことではなく「魅せること」に意識を変換したり、試行錯誤しながら日々を送っている。この破片集め

に試行錯誤することこそ、親として高校時代に苦しみながらでも体験してほしいと思っていることであり、この経験がこれから迎える平坦でない人生の道のりを乗り越えていく糧となると確信している。

そして何よりも、夢に向かつて誠心誠意努力していくことを支援してくれる先生のもと、最高の練習環境である開星新体操部で活動できていること、すなわち「夢の破片探し」を思う存分させてもらっている毎日に感謝している。

高校2年生が終わろうとしている今、残りのあと1年も、夢の破片を這いつくばつて拾い集め続け、有意義な高校生活を送つてほしいと願っている。

